

電通：人権ポスター2020年度作品

社会を変えるには時間がかかるけど、
自分を変えるのに時間はからない。

根拠のない誹謗中傷のあふれるインターネットの世界で、このポスターを目にした時、うれしいような、勇気づけられたような、あたたかい気持ちになりました。

部落差別のあるこの社会は簡単には変わらないけれど、自分を変えることができる。

自分が変わることによって、ドミノ倒しのように続く差別の連鎖を止め、部落差別のない社会に変えていくというメッセージが伝わってきます。

あたたかい気持ちを広げる力に

インターネット利用が当たり前の時代になり、私たちの生活は、ひと昔前では考えられないほど便利になりました。

その一方で、情報発信が簡単にできるようになったことから、さまざまな情報があふれ、差別的な言葉やネガティブな情報を目にすることもあります。

差別の伝言ゲーム、
私たちでもう終了です。

「部落差別」を「差別の伝言ゲーム」と言い換えて、それを自分たちが終わらせるのだ、という強い意志をこのポスターから感じました。

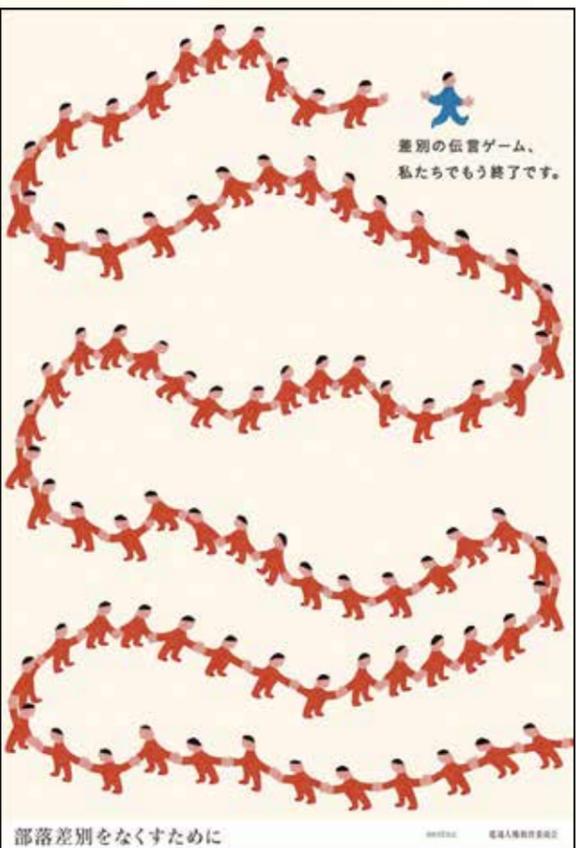
インターネットには、「伝言ゲーム」のように差別を社会にばらまいてしまう恐ろしさがあるからです。

私たちにできること

部落差別をなくすために、日々、インターネットを使う私たちに、何ができるでしょうか？

筑紫野市の「人権尊重のまちづくりスローガン」にそのヒントがあるように思います。

自分が人からされたり、
言われたりして、いやなことは
自分は人にしない、言わない



電通：人権ポスター2018年度作品

しかし、このポスターのようにあたたかい言葉やポジティブな情報を広げることができません。インターネットを使う者の知恵と勇気で、あたたかい気持ちを広げる力にしていききたいものです。

差別の伝言ゲーム

ポスターには、次のようなものもありました。